

大和まちづくり協議会

将来像（まちづくりのビジョン）

『仲良く、楽しく、元気よく！』を合言葉に、大和地区に住む人々が、いつまでも安心して、幸せに暮らせる地域づくりを目指し、特に、子育て支援、高齢者支援、防犯活動・防災活動、友愛活動支援の4本柱を中心に、継続的に事業に取り組んでいきます。

地区の概要

【人口】 2,807 人(令和 5 年 3 月末) 【世帯数】1,385 世帯(令和 5 年 3 月末)

【65 歳以上】 930 人 33% 【単位自治会数】23 自治会

紹介文

大和地区は、50 年程前の宅地造成に伴う児童数・学級数の急増に伴って、昭和 46 年 4 月に大成小学校から分離独立した大和小学校区と重なり、成徳中学校も地区内にある。NTN、光精工、水谷建設等の大企業や中小工場が散在する地域と、昔からのコメ作りやタケノコを産する農業地域と春陽町、若竹町、清竹町等の、当時の新興住宅地域から成る。平成から令和に入り、一段と少子高齢化が進行し、高齢化率も年々上昇して来ており、地域での課題も多様化が進んでいる。

多様な課題に対して、4 年前の「連絡協議会」立ち上げから、引き続き、2 年間の「まちづくり協議会設立準備委員会」での協議を経て、準備委員の方々の協力と努力の甲斐あって、令和 4 年 5 月 14 日に大和まちづくり協議会設立総会開催の運びとなった。

年間スケジュール（主な事業）

5 月 総会、年間 6 回の役員会で各事業を展開、総括して次年度につなぐ。

令和5年度 大和まちづくり協議会 事業計画 一覧

主催：大和まちづくり協議会 主幹A：実行団体名 主幹B：〇〇実行委員会

事業名	対象	実施予定	主幹	主幹団体
① 放課後子ども教室支援	小学生	毎週火曜日	A	放課後子ども教室
② 子ども安心・安全見守り訪問(赤ちゃん訪問)	育児(2歳以下)	偶数月	A	地区民生・児童委員
③ 大和キッズあつまれ!!	青少年	隔月	A	大和キッズ
④ 親子で楽しむ芸術鑑賞会	小学生親子	10月13日	A	大和小学校PTA
⑤ 交通安全啓発活動	小学生	毎月第3月曜	A	交通安全大和支部
⑥ 認知症みんなが安心 声掛け訓練IN大和	高齢者	10月14日	B	認知症声掛け訓練実行委員会
⑦ 高齢者の生活・安全お守り活動	高齢者	11月12日	A	健康推進会
⑧ 初詣・お伊勢参り	全世帯	1月29日	B	初詣・お伊勢参り実行委員会
⑨ 防災訓練	隊員	11月26日	A	自主防災連絡協議会
⑩ 防災視察研修	役員・委員	9月10日	A	自主防災連絡協議会
⑪ 防災備材の充実	全般	7月中	A	自主防災連絡協議会
⑫ カラオケ大会	全世帯	11月12日	B	カラオケ大会実行委員会
⑬ 先進地視察研修	代議員	10/29・30	A	大和まちづくり協議会
⑭ 「お助け活動用車両購入」積立基金	全世帯	通年	A	大和まちづくり協議会
⑮ スタッフ・ユニフォーム製作	スタッフ	7月～8月	A	大和まちづくり協議会
⑯ 事務局として広報・啓発・活動支援	全世帯	通年	A	大和まちづくり協議会

事例紹介

11/27 大規模 防災訓練

主幹：大和地区自主防災連絡協議会

- ・大和地区全住民を対象に、避難経路確認・避難場所での受付訓練…70% 各種体験訓練…30%
- ・訓練理念として、コロナ禍で感染対策を十分行い、防災訓練を行う。想定は、コロナ禍の中 南海トラフ由来の震度6強の地震があり、津波警報が発令された。津波警報発令後、60分以内に避難場所へ避難する。

※ 当地区は津波警報発令後、85分で津波が到達する予想

7:45 成徳中学校プール西側に集合
8:00～ 防災無線発信訓練

東汰上地区の火の見櫓にて
8:15～ 半鐘打ち鳴らし訓練



8:10～ 各自治会にて避難広報訓練（災害時要支援者の方々への声掛けも含む）
自治会指定の避難場所に集合 → 避難経路を確認・危険箇所も点検しながら 大和小学校へ避難開始



学校に到着 先ずは手指消毒

受付にて 各自、チェックシートに記入 → 自治会別の箱へ入れる → 旗やブラカートの各自治会別に集合・整列



(第3種郵便物認可)

地震津波想定 住民300人が訓練

校庭に集まり感染対策のチェックシートに記入する参加者たち＝桑名市の大和小で

南海トラフ地震の津波などから逃げることを想定した防災訓練が十一月二十七日、桑名市の大和地区で行われた。新型コロナウイルスの感染が広がることを心配する住民らも、高台避難

配して防災訓練を取りやめた。和まじり協議会は三百人超を誇る規模での実施に踏み切った。

地震の発生後に津波警報が発令され、揖斐川右岸域に暮らす住民らが一時間ほど高台の大和小学校まで歩いて避難する練習をした。大和地区では百五十人の「防災隊員」を決めており、隊員たちは近所のお年寄りに声を掛けながら避難する道を確認した。

同協議会の梶充夫会長（左）は「コロナは気になるが、南海トラフ地震を免すえた訓練も続けなければいけない」と思っていた。感染対策はしっかりと行い、できることに取り組んだ」と話す。参加者には小学校への参集時に体温や体調を尋ねるチェックシートに記入してもらい、手指消毒も徹底した。

桑名市防災・危機管理課によると、市内二十九地区の住民団体に対し、三年に一回は多くの住民が参加する訓練の実施を呼び掛けているが、新型コロナウイルスが広がった二〇二〇年以降は開いていない地域が多い。三百人超が集まる規模の訓練は「他に把握していない」という。

（大島康介）

桑名 大和地区 お年寄りも高台避難

配して防災訓練を取りやめた。和まじり協議会は三百人超を誇る規模での実施に踏み切った。

地震の発生後に津波警報が発令され、揖斐川右岸域に暮らす住民らが一時間ほど高台の大和小学校まで歩いて避難する練習をした。大和地区では百五十人の「防災隊員」を決めており、隊員たちは近所のお年寄りに声を掛けながら避難する道を確認した。

同協議会の梶充夫会長（左）は「コロナは気になるが、南海トラフ地震を免すえた訓練も続けなければいけない」と思っていた。感染対策はしっかりと行い、できることに取り組んだ」と話す。参加者には小学校への参集時に体温や体調を尋ねるチェックシートに記入してもらい、手指消毒も徹底した。

桑名市防災・危機管理課によると、市内二十九地区の住民団体に対し、三年に一回は多くの住民が参加する訓練の実施を呼び掛けているが、新型コロナウイルスが広がった二〇二〇年以降は開いていない地域が多い。三百人超が集まる規模の訓練は「他に把握していない」という。

（大島康介）

令和四年度 大和地区大規模防災訓練の様子が
十二月二日の中日新聞朝刊 第十四面
北勢版に掲載される

問合せ先

大和まちづくり協議会事務局（大和まちづくり拠点施設内）
所在地 桑名市大字播磨 734 番地 1
TEL 0594-24-6127 E-mail : twmk6127@hotmail.com